

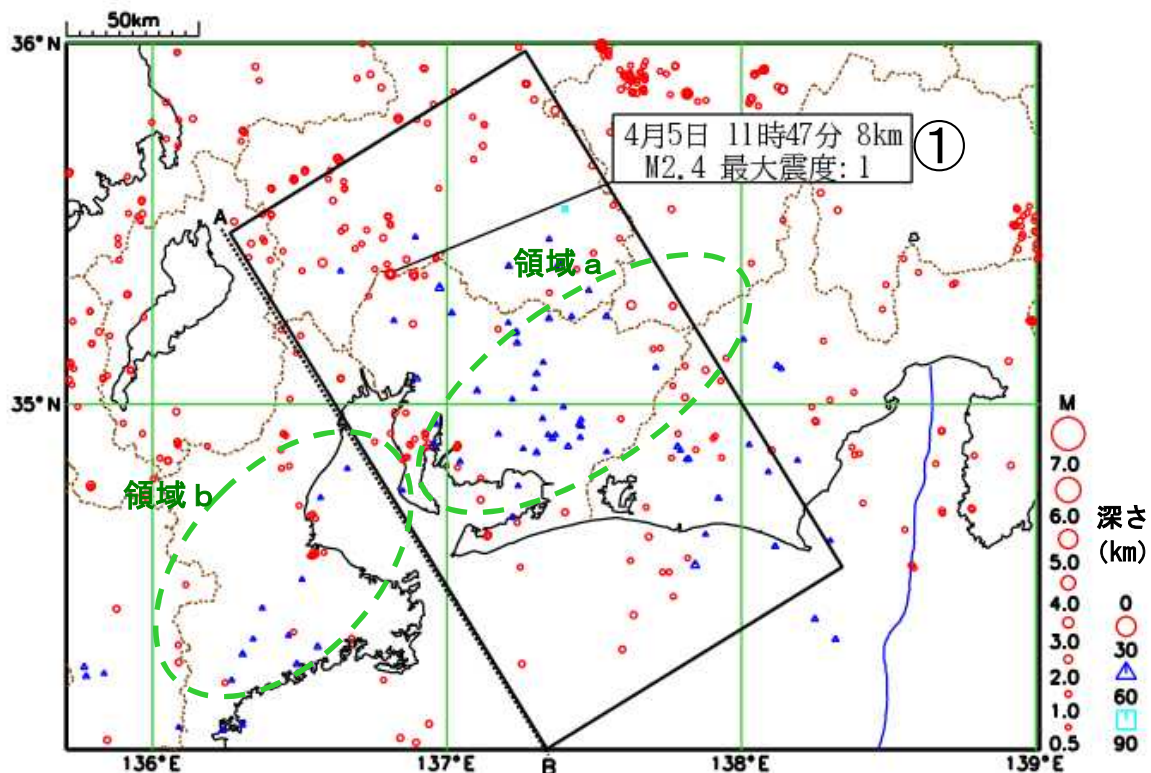
愛知県地震概況

令和6年（2024年）4月

この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

○概況

1. 愛知県内で震度1以上を観測した地震の状況
4月に愛知県内で震度1以上を観測した地震が2回発生しました。
2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震
① 5日11時47分に愛知県西部でM2.4の地震（最大震度1 深さ8km）が発生しました。
3. 深部低周波地震の活動状況
 - ・ 東海（領域a）
22日
 - ・ 紀伊半島北部（領域b）
7日、19日～22日



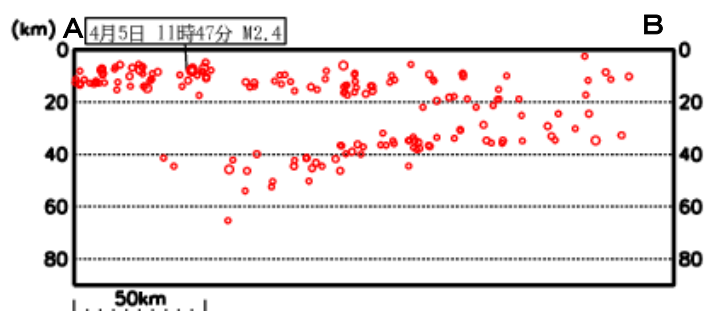
震央分布図（2024年4月1日～30日 深さ0～90km M≥0.5）



深部低周波地震（微動）

深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。

（注）Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A－Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ 25km 程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度 1 以上を観測した地震

愛知県西部（1 頁目震央分布図①）

4 月 5 日 11 時 47 分に愛知県西部で発生した M2.4 の地震（深さ 8 km）により、愛知県犬山市・扶桑町、岐阜県で震度 1 を観測しました。（図 1）。

この地震は地殻内で発生しました。



図 1 4 月 5 日 11 時 47 分 M2.4 震度分布図
（観測点別、×：震央）

豊後水道（1頁目震央分布図領域外）

4月17日23時14分に豊後水道で発生したM6.6の地震（深さ39km）により、愛媛県愛南町、高知県宿毛市で震度6弱を観測したほか、関東から九州地方にかけて震度5強～1を観測しました。（図2）

この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M5.0以上の地震が時々発生しています。（図3、4、5）

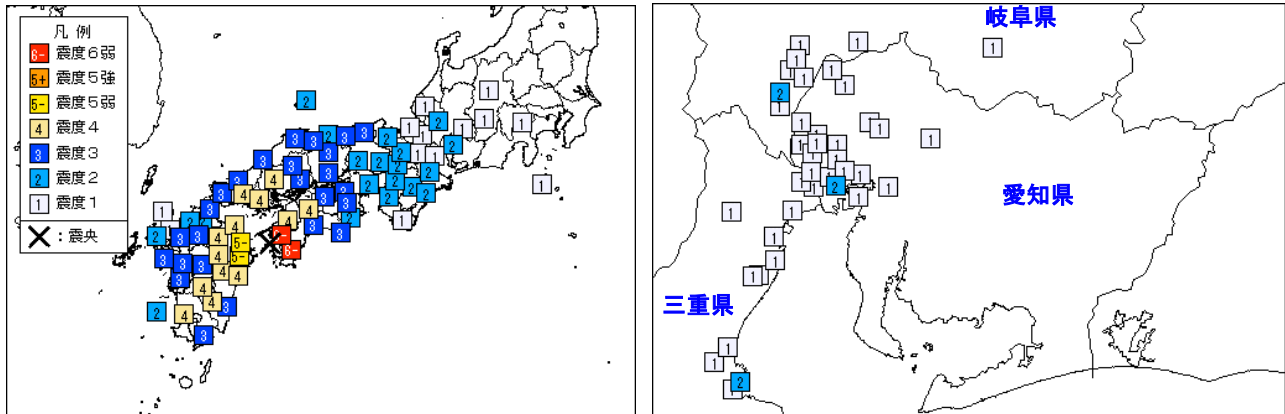


図2 4月17日23時14分 M6.6 震度分布図
（左：地域別、右：観測点別拡大図、×：震央）

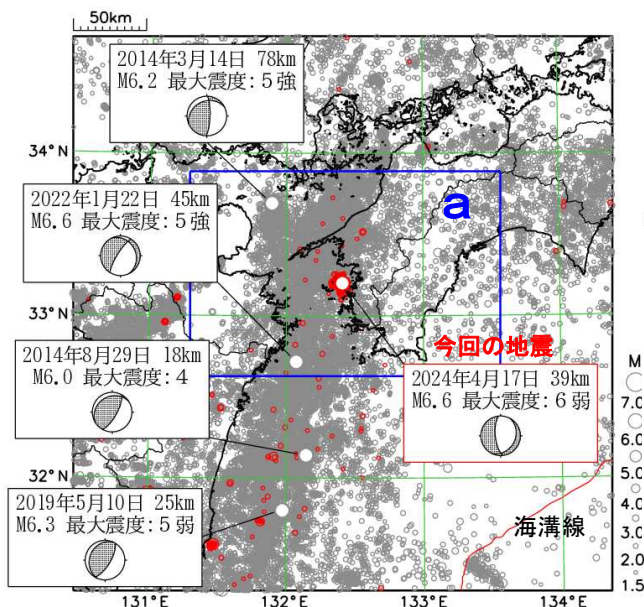


図3 震央分布図
（1997年10月1日～2024年4月30日、
深さ0～80km、 $M \geq 1.5$ ）
2024年4月の地震を赤色で表示

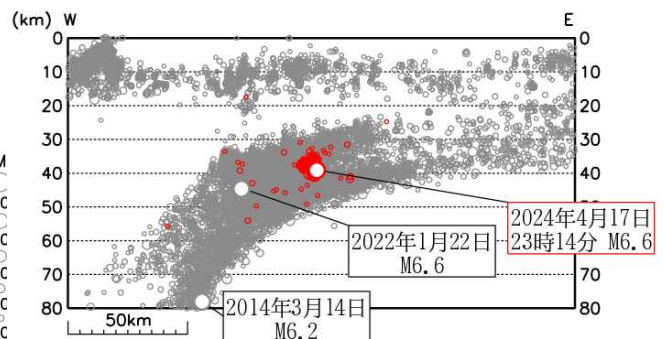


図4 領域a内の東西断面図

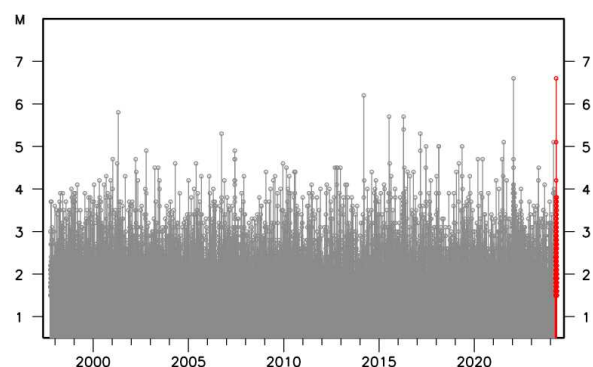


図5 領域a内のMT図

○震度 1 以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2024 年 04 月 05 日 11 時 47 分 愛知県 震度 1 : 犬山市五郎丸 *, 扶桑町高雄 *	愛知県西部	35° 21.7' N	136° 48.4' E	8km	M2.4
2024 年 04 月 17 日 23 時 14 分 愛知県 震度 2 : 飛島村竹之郷 * 震度 1 : 名古屋北区萩野通 *, 名古屋西区八筋町 *, 名古屋港区金城ふ頭 * 名古屋港区春田野 *, 名古屋港区善進本町 *, 名古屋南区鳴尾 *, 一宮市木曾川町 * 一宮市緑 *, 愛知津島市埋田町 *, 蟹江町蟹江本町 *, 愛西市稲葉町, 愛西市石田町 * 愛西市江西町 *, 愛西市諏訪町 *, 弥富市神戸 *, 弥富市前ヶ須町 *, あま市七宝町 * 長久手市岩作城の内 *	豊後水道	33° 12.0' N	132° 24.5' E	39km	M6.6

（注 * 印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html>』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

※2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

地震資料に使用される図の見方について

名古屋地方気象台では、地方公共団体等による地震津波防災対策を支援するため、愛知県内の地震活動の状況をお知らせする「愛知県地震概況」を毎月作成・公表しています。また、愛知県内で震度4以上の揺れを観測した場合や気象庁が津波警報等を発表した場合には、地方公共団体等の防災対応を支援するための資料として「地震解説資料」を必要に応じて作成・公表しています。今回は、2015年3月4日に愛知県一宮市などで震度4を観測した愛知県西部の地震を例として、これらの資料に使用される主な図の見方について解説します。

① 震度分布図（図1）

震度分布図は、各地の震度計で観測した震度を地図上に表示し、地震による揺れの強さや範囲を表しています。地震による揺れが広範囲にわたり多数の観測点の震度がある場合には、図が煩雑にならないよう、各地域内、各市区町村内で観測した震度の中で最も大きな震度を代表させて表示することがあります（図1は地域別の震度分布図の例）。また、地図上の×印は、地下の震源を地表に投影させた点（震央）です。

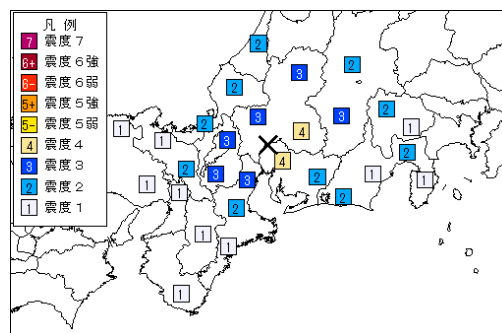


図1 震度分布図（地域別、×は震央）

② 震央分布図（図2）、断面図（図3）

震央分布図は、地震が発生した場所を地図上に表示し、地震活動の面的な広がりや範囲を表しています。表示するシンボルの大きさや色を変えて、地震の規模（マグニチュード）や震源の深さを表現します。また、断面図により地震活動の立体的な広がりや範囲を表します。図3は、図2の矩形で区切られた領域をA-Bの直交方向から見た断面図です。この断面図を見ると、地震の活動が深さ20kmよりも浅い所（陸域の浅い地震）と30～50km（主にフィリピン海プレート内部の地震）で発生していることが分かります。

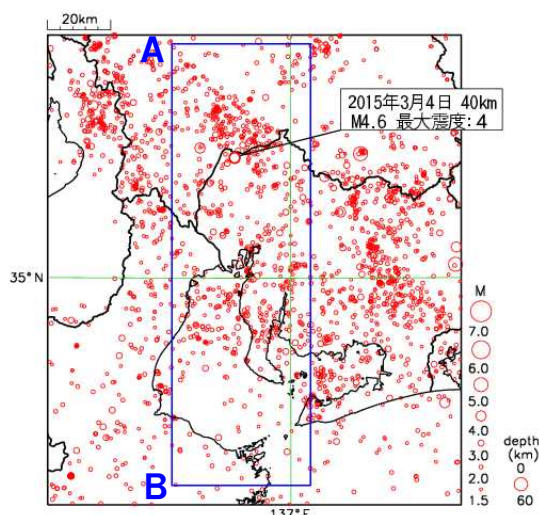


図2 震央分布図

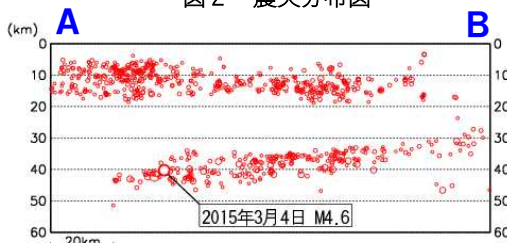


図3 断面図（A-B投影）

③ 地震活動経過図と回数積算図（図4）

地震活動経過図は、ある領域内において時間の経過と共にどの程度の規模の地震が発生したかを表しています。マッチ棒のような形状1本が個々の地震です。また、回数積算図は時間経過毎の地震発生数の積算（合計）数を折れ線グラフで表現しています。回数積算図から、ある期間内での地震の増加傾向を把握することができます。

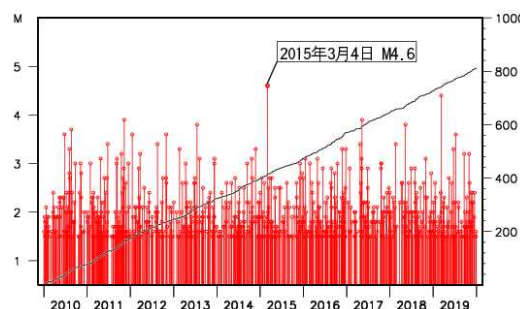


図4 地震活動経過図及び回数積算図